

# スポーツ大学生の健康概念に関する一考察 —特に喫煙について—

谷口 雅俊 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)  
指導教員 川合 英之

キーワード：大学，キャンパス内全面禁煙，受動喫煙，喫煙率

## 1. 緒言

スポーツを行う者にとって喫煙は有酸素運動能力の低下や回復力の低下，筋力・瞬発力の低下を助長するものとして課題視されており，アスリートは喫煙を避ける者が多い．本学はスポーツ大学ということもあり，喫煙についての考え方や意識を念頭に学内禁煙及び大学周辺禁煙に関する取組を展開している．

そこで，本学のこのような環境における喫煙の実態や禁煙に関する取組について学生の意見・感想に関する調査を行い，今後のスポーツに関係する大学生の喫煙の在り方，学内全面禁煙の方向性を考えることにした．

## 2. 研究方法

以下のとおりアンケートを実施した．

- 1) 調査対象者：本学の1年次生から4年次生（1年次生 368 人，2年次生 331 人，3年次生 295 人，4年次生 271 人で回答数は 1265 人）
- 2) 調査日時：2016 年 4 月 4 日（月），5 日（火），6 日（水）
- 3) 調査内容：本学保健センターが実施している「タバコについてのアンケート調査」を実施

## 3. 結果及び考察

- 1) 学友が学内外で喫煙している場合の対応  
「学内では注意する」という意見が 560 人（44.3%）と最も多い結果となった．学年別では，1年次生が 210 人（77.3%），2年次生が 140 人（44.6%），3年次生が 101 人（29.7%），4年次生が 109 人（49.5%）と年次が上がるに従

って「注意しない」という結果となった．また，「学外の場合」では，1年次生 101 人（31.2%），2年次生 43 人（11.6%），3年次生 27 人（5.7%），4年次生 28 人（7.5%）と同様に年次が上がるに従って注意する者も減っていく結果となった．

表 3 年次別で見た結果(学内) 単位：人

		許容	注意する	注意しない	無視	合計
年次	1	2	210	51	105	368
	2	12	140	54	125	331
	3	27	101	37	130	295
	4	29	109	30	103	271
合計		70	560	172	463	1265

## 4. まとめ

今回の研究で1年次生はキャンパス内全面禁煙に対しての意識が高く，3年次生，4年次生では大幅に意識が低下している．

「学内禁煙」という意識は学生に浸透しているが，学外に出ると注意する人も減り，個人の勝手という気持ちに陥り意識が低下してしまうのが現状である．

## 引用参考文献

- ・藤井香 他（2007）：大学キャンパスにおける禁煙活動と喫煙率の変化．慶應保健研究 25（1）：83-87
- ・厚生省（1998）喫煙と健康問題に関する実態調査 結果の概要．